

北村研究室（保全生態学）

現在の環境問題の中心でもある生物多様性の減少に対して様々なアプローチから取り組んでいます。『生物多様性がなぜ生じるのか？』といった基礎研究から、『生物多様性を守るために何をしたらよいのか？』といった実践を含む応用研究まで幅広く行っています。フィールドワークを中心に、野生生物の行動や進化について調べ、各野生生物の性質に合わせて保全策や環境を創生するための手段を講じます。

テーマ例 1：エネルギー問題と生物多様性

●風力発電が鳥類に与える影響の解明

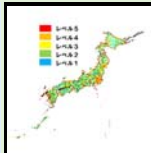
風車への衝突しやすさを考慮した風車アボイドマップの試作
生物多様性に配慮した風力発電所建設時の環境アセスメント手法の開発

●放射能が生物に及ぼす影響の解明

福島第一原発後の高線量地域における生態系への影響のモニタリング調査



▲写真 上
風車周辺の環境調査風景



▶図 右
試作した風車アボイドマップ

◀写真 左
野鳥に装着された線量計

テーマ例 2：生態系創出による生物保全

●コアジサシの人工営巣地の創出

屋上人工営巣地における絶滅危惧鳥類コアジサシの保全活動

●地域緑化活動と生物多様性

都市の緑化が鳥類を中心とした生物多様性に与える影響の解明



▲写真 上
コアジサシ（絶滅危惧種）

◀写真 左
野鳥のための人工屋上営巣地

▶写真 右
大学生の行う地域緑化活動

テーマ例 3：生物多様性を維持する機構の解明

●動物の行動特性に配慮した保全策の提言

ニューカレドニア固有鳥類カグーの共同繁殖行動の解明
ジオロケーターを用いた渡り経路の解明によるフライウェイの保全計画

●個体レベルの形質の多様性の進化

個体間の相互作用を中心とした動物の行動の進化に関する研究



▲写真 上
ニューカレドニアのカグー

▶写真 右
家族内の対立の模式図

◀写真 左
足に装着されたジオロケーター



2013年に新しく誕生したばかりの研究室です。同時期に誕生したばかりの環境学部をともに盛り上げてくれる仲間を募集しています。自然ゆたかな横浜キャンパスを中心に、地域に根ざした研究から、海外フィールドでの調査などの国際的研究まで幅広く行っていく予定です。生物多様性を中心とした環境問題を、自ら解決する力を養える研究室だと考えています。

Contact: 北村 亘（きたむら わたる）
TEL 045-910-2590 Mail kitamura@tcu.ac.jp
HP <http://kitamura-lab.net/>

*基本的に学部生の受け入れが中心ですが、修士・博士課程の受け入れも相談に乗ります